

# 和文CW、QSOができるようになる方法

欧文のCWでQSOが出来るようになり、交信にも慣れて局数が増えていくと、国内のJCC、JCGを集めたり、HFでDXを集めるなどの道が開けます。

しかし、以前交信した局が呼んできた場合、SSBであれば「〇〇さんお久しぶりです」などのあいさつができますが、欧文のCWでは自局、相手局双方が相当の英語力が無ければ、あいさつ後の会話できません。つまり『2ndQSO』ができないもどかしさを感じるようになります。特に144MHz.430MHz帯では同じ局と交信する機会が多くSSBのような会話が必要になります。

和文CWではSSBのように普通の会話ができCWの楽しみが更に増加します。

しかし、和文の符号は交信で使用されている符号が54もあり、欧文の約2倍の符号を覚えることが高い壁になります。

そこで、和文CWを目指す第一歩は、符号を覚えることよりも和文に親しむことから始めるのが良い方法だと思います。

## ①和文の打ち逃げをする（私がやった方法）

欧文での交信の最後に和文で送信し、その後相手が何を送ってきても、73 T U E Eで交信を終わる打ち逃げをする方法です。

「DR 〇〇SAN CU AGN ホレ アリガトウゴザイマシタ サヨウナラ73 T U」のように打って逃げるわけです。

文例 ・アリガトウゴザイマシタ ・サヨウナラ ・ヤスマシサイ ・マヨロシクオホガイマス

この符号を紙に書き、そのとおりに送信して、相手が何を送ってきても後は知らない。最後は73 T U E Eで逃げてしまう方法です

相手局へは多少の迷惑をかけますが、これを繰り返していれば、送信する符号のいくつかは覚えてきます。また、相手局からの送信で「アリ」と来ればアリガトウゴザイマシタ。「サヨ」と来ればサヨウナラというように、後の符号が予想できます。頭の中では、この作業を自然にやってくれるようになります。

## ②素朴な疑問（欧文の符号と和文の符号が混同しないか）

和文符号の中には欧文と全く同じ符号を使う文字がありますが、最初のホレ(和文符号への切り替え)で、和文のモードに切り替わります。この作業も頭が自然にやってくれると思います。(実際に経験すればナルホドと思います)

## ③欧文の符号の中に似たような和文符号がある

欧文符号の「U」は和文符号の「ウ」になり、全く同じ符号です。

欧文符号の「KI」は和文符号の「キ」になり、これはヒントになります。

このように何かのヒントを元に一文字ずつ覚えていく訳です。

## ④和文に親しんだところで、実際に交信してみる

実際の交信では144MHz.430MHz帯での交信が良いと思います。このバンドでCQを出している局の大部分が和文局で、CQの後にホレを付けていますので、その局にコールしてみます。

最初は無謀な挑戦かも知れませんが、現在関西圏で和文に良く出ている局は約50~60局程度ですからCQを出している局は、コールサインで新しい局だとすぐ分ります。相手局にレポートを送り「和文を始めたばかりでまだ符号は良く取れません」などと自局の状態を送れば親切に対応してくれると思います。最初は相手局の符号が良く取れなくても、勇気を出して挑戦することが重要です。

⑤和文ではどのような交信をしているか

交信例

相手局 CQ CQ CQ ホレ DE JB3ABC PSE K

自局 DE JB3DEF K

相手局 JB3DEF DE JB3ABC ホレ コンニチワ シンゴウハ 599 5NN デス コチラハ キョウトシ  
キョウトシノ ナマエハ タカ タカ デス ヨロシクオネガイシマス ラタ BK

自局 JB3ABC DE JB3DEF ホレ キョウトシノ タカサン コンニチワ 599 ノレポート アリガ  
トウゴザイマシタ タカサンノ シンゴウモ 599 5NN デス コチラハ ウジシ ウジシノ ナマエハ サトウ  
サトウ デス ヨロシクオネガイシマス ラタ BK

相手局 R ホレ ウジシノ サトウサン コチラコソヨロシクオネガイシマス キョウハ ハジメテノコウシン アリガトウ  
ゴザイマシタ ソレデハ サウナラ ラタ JB3DEF DE JB3ABC 73 TU E E

自局 R ホレ タカサン アリガトウゴザイマシタ マタヨロシクオネガイシマス サウナラ ラタ  
JB3ABC DE JB3DEF 73 TU E E

以上のように最初の交信では、レポートと、双方のQTH、名前を交換して交信を終わりますが、双方に時間があれば交信を続けることになります。

⑥交信の原則

上の交信例でも分るように、欧文から和文への切り替えは「ホレ」の符号で切り替えます。この時、欧文と和文の同じ符号でも頭が自然に和文の符号として認識します。（「ホレ」「ラタ」の符号は区切らず続けて送信します）

逆に和文から欧文への切り替えは「ラタ」の符号で切り替えて、双方のコールサインを送るか、又は「ラタBK」で相手局へ返します。

⑦間違えた時の符号の訂正はどうするか

「コンニチハ」を「コンニチ」で送信した時には、「ラタ」が訂正符号になります。

「コンニチ ラタ コンニチハ」と単語の最初から送信しなおします。

「ラタ」は切り替えの符号ですが、訂正符号としても使用されます。

同じ符号は混乱するようには見えませんが、その状況により何の符号か分ります。

⑧和文の途中で欧文の文字を送る場合はどうするか

例1「私のリグはTS790Sです」

「ワタシノリグハ(TS790S)デス」このように欧文の部分を「括弧」でくくります。

例2「それはFBですね」

この場合には、括弧を付けない場合があります。受信側では「ソレハ チハ デスネ」と受信しますが、「チハ」は「FB」だとすぐに分るからです。

⑨「こんにちは」と「こんにちわ」

日本語では、文字に「こんにちは」と書いて「こんにちわ」と読みますが、和文では「は」を使う局と「わ」を使う局があります。

以上のように和文は欧文と違って会話が可能となり、同じ局と毎日でもSSBのようにお喋りができますので本当に楽しいものです。

送信練習をして和文の符号が出せるようになれば、144MHz. 430MHz 帯でCQホレを出している局にコールしてみてください。最初にRST, QTH, 名前をゆくり送ると相手局は、遅い符号でRST, QTH, 名前を繰り返して送信してくれまますので、別資料の和文解読表で相手局のQTH, 名前を解読します。相手局のQTH, 名前が分った時は本当にうれしいものです。考えているよりもまずは実行してみてください。経験の積み重ねが上達の秘訣であると思います。